



2025ジェンダー平等ミーティング

ジェンダー平等ミーティング

令和6年度
若い世代からの
ジェンダー平等
推進事業

2025年2月15日(土) テーマ
「武道・部活動とジェンダー」



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS





世の中ではジェンダー平等が進んできたと言われていますが、実際は??

ジェンダーの視点から武道、部活動を見つめ、考えました。

テーマ

武道・部活動と
ジェンダー



まだまだ課題もあるけど、ジェンダー平等は確かに進んでいる...

そのような思いをみんなで共有することができました。

「武道・部活動とジェンダー」

話題提供：富川 拓 さん（聖泉大学准教授）、県内現役大学生 ほか

【剣道】

- ・身体的に女性が不利というところでの区分は理解できるが、「そこは分けられたくない」といったプライドもある。“女子八段”という称号にどれほどの価値が？
- ・ぶつかり合いなどもあるが、基本的には男女一緒にできるようになっている。剣道のよさは「力だけではない」ところ。
- ・妊娠、出産後復帰するのがなかなか難しいなど、“女性の継続しづらさ”ということはある。
- ・垂（たれ）のカバーをかわいくした。よい試みだと思うが、昔からずっと続けている人は「ちゃんとやって」。堅苦しい世界ではある。

【空手】

- ・「形」は男女混合。力強さは男子の方がああるけど、軸のブレ等男女関係なく競える部分も。
- ・「形」は“印象ゲーム”。例えば声の大きさをうまい、うまくないが決まると言えるほど。
- ・審判員は、男女比率が9:1ぐらい。
- ・自分の部は、男女の比率が5:5、5:4ぐらい。このことを強みにしている。
- ・女性が継続することのハードルは高い。夫婦で、彼氏と一緒になど、男性とのつながりがないと続けていくのは難しい。(そもそも道場などの環境自体整っていない)



【弓道】

- ・『正射必中』…正しく射れば必ず命中する。弓道で大切な言葉。このことは、弓道以外のあらゆることにも当てはまる。
- ・衣装の違い、女性はより簡易的？着付け方も男女で異なる。初射会、男性で華やかな衣装はあまり見ない。
- ・ルールが同じで、男性と女性と一緒にできるのが魅力。ただ、大会は分かれている。一緒にやっても問題ないのに・・・
- ・弓具は学校のものを借りていた。ものが限られているため、“強い弓”は男子が使わないと女子が使えるものがなくなる、そのような環境的な問題も。「男子は強い弓ひかないと」と言われたりもする。



剣道、空手、弓道についてそれぞれ話題提供いただいたことを受け、武道・部活動をジェンダーの視点からさらに考えました。

- ・女性の指導者も少なければ、女性の審査員（昇段審査）も少ない。（剣道）
- ・指導者の偏りで女性指導者の着替える部屋がないといった問題も。
- ・男女で道具が決まっていて、選べないというのも・・・（剣道）
- ・爪のチェックは男子も女子もおこなうようになった。（空手）
- ・自分の学校の部活をふり返ってみると、バスケ部は男子も女子もあった。野球部は一人だけ女子がいた。バレー部とテニス部は女子だけ・・・。どうしてそうになっていたのか。ハード面（人数や場所の確保）的なことだけでそうになっていたのか。

- ・更衣室、女子はオートロック、男子は鍵なし。不審者注意の貼り紙なども女子トイレにだけ貼ってある。女子は守られるが男子は守られない??
- ・“気づき”を伝えていくチャンスはあるのか。
→ 愚痴を言い合うぐらい・・・「いつか届けばいいな」
- ・意見したらそのことが反映される環境ではある。
- ・礼儀面など、なぜか女子には言わなさすぎの先生も。
- ・男女混合の部活の難しさもあるが、女子だけ、男子だけだと、くずれる時一気にくずれたりする。混合の方がやりやすい、という部分もある。

- ・差別はいけませんが、配慮はしないといけない。そのバランス。
- ・いろいろ話を聞いていると、男女関係なく平等なところもあるのでは（増えてきているのでは）と感じる。一方で、伝統や、これまでずっと大事にされてきたものもあって・・・
- ・なんにもなしに（話し合いや議論をとばして）とりあえず「ジェンダー平等すばらしい」ではもちろんないが・・・
- ・女性が継続できる環境が整い、女性の「経験者」が増え、女性の指導者も増える、そのような流れになれば。

感想

- ・どの部活動にも共通した課題のようなものがあると感じ、男女関係なく武道やスポーツができる環境等をつくっていくべきだと強く思いました。
- ・ジェンダー平等の大切さ、難しさについて「指導者」はどのように考えているのかを知れてよかった。
- ・武道について話し合うことをとおして、ジェンダー平等のあり方への理解を深めることができた。
- ・当たり前だと思っていたことをジェンダーの視点からみることで、いろいろ気づくことがあると学びました。より多くの人が、「今ある男女差」に気づくことができれば。